

計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

会報 2008-5

発行日：平成20年5月14日

発行元：計画・交通研究会

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489

E-Mail= jimukyoku@keikaku-kotsu.org

Homepage=http://www.keikaku-kotsu.org/

目次

Opinion	1-2
交差点からはじめよう！	
News Letters	2-9
事業報告・活動報告	
Announcement	10
研究会・催事の御案内	
Publication / Documents	10-15
刊行物・文献資料	
Backyard	15
事務局通信	

□ Opinion

交差点からはじめよう！

大口 敬

ヒトは陸上を足で歩く動物である。海を泳ぐのも空を飛ぶのも専門ではない。基本は陸の歩行。この行為の自然な発展が、歩く／走る能力の高い「別の動物」を「道具」として歩く行為を拡張することであり、現代ではこれが自転車・二輪車・自家用車へと置き換えられてきた。このように陸上移動行為は、こうしたヒトの根源的な欲求にもとづくものであり、ヒトがヒトである限り必然として残るものであろう。いわば「基本的個人移動権」とでもいうべきものがある気がする。これを保障するための基盤こそが「みち（道・路）」である。

点と点を結ぶことを考えている限り、「みち」に関して重要なのはハードウェアとしての技術である。やがて移動活動が活発になると点と点をむすぶ「線」が「交錯」を起こす。「みち」、あるいは「移動軌跡＝交通動線」の「交差」である。モータリゼーションの進展と交通量の増大とともに「交差を物理的に排除・軽減する」ための、画期的技術革新として「立体交差（インターチェンジや横断歩道橋など）」が生まれた。それまでの平面的な「陸上の移動」に「上下」という第3の次元を加えることで、交通交錯がもたらす非効率性（交通容量低下、移動時間増大）と生命財産の危険性（交通安全低下）の回避・低減を実現したわけである。

しかし立体構造による解決は必ずしも万能ではなく、むしろ移動のユニバーサル性の低下や空間制約下での実現困難性、そして特に費用の問題も大きく、限られた条件でしか適用できない。「みち」としては、2次元「平面交差」のまま、「交通管理」によって非効率性・危険性をできる限り低減する技術を開発しなければいけない必然性に迫られた。車両に停止線を設け、歩行者に横断歩道を設け、「一時停止」規制によって「交通」を「制御」する技術が導入され、・・・やがて「交通信号制御」という手法に至る。

交通信号制御とは、電気信号の制御ではなく、信号灯器を用いた「交通」の「制御」である。2次元平面で安全・円滑な交通流確保のための管理技術として、欧米先進諸国では今も着々とさまざまな工夫にチャレンジし、技術的蓄積が進められている。わが国は、欧米よりも歩行者密度や都市街路構成などの点で条件が異なり、都市部の複雑な交差点において、独自の考え方、制御技術の必要性をひしひしと感じる。しかしわが国では、交通を制御する計画・設計として交通信号制御を体系化しようとする取組みは大きく立ち遅れている。一方で、現場の交通事情を覗き見れば、この分野の技術開発の余地があまりにも多いことに驚く。信号サイクル長が長いことによる

遅れの増大や交通渋滞の現出、長い待ち時間、長い黄・全赤表示時間設定、硬直的な表示パターンによる無駄青表示、などが誘発するドライバや歩行者の漫然挙動・危険挙動、法的に安全な横断が保障されない歩行者交通制御手法、十分な優先権が確保されない公共交通制御、ルートガイダンス時の転回対象交差点の認知システムの欠如、あるいは渋滞した交差点で飽和度（需要率）が0.8以下だと平気で計算してしまう圧倒的な現場技術者不足、などなど、枚挙に暇がない。

近年、右直分離方式や歩車分離方式など矢印信号を用いた方向別制御や歩行者信号灯器における残り時間表示など、多様な制御方式の導入

が少々乱立気味である。こうした柔軟な制御を道路幾何構造設計や車線運用・規制などと組合せて、総合的な交差点の交通の交錯を適切に制御する技術体系として確立し、これを操ることのできる多くの技術者を現場に送り出さなければならない。併せて交通信号機を用いない交通管理技術として近年急速に欧米で導入が進むRoundabout制御方式（円形交差点を環道優先交通ルールで処理）についても、わが国独自の取組みが必要な時期に来ている。「みち」を「造る」から「使う」へ。その鍵を握るのは「平面交差」である。

（計画・交通研究会 正会員 / 首都大学東京教授）

□ News Letters

事業報告・活動報告 □

■ 2008年2月 特別懇談会

- 日時:平成20年2月18日(水)18:00-20:30
- 会場:東京大学工学部1号館15号講義室
- 演題:「国土形成計画に見る新しい国づくり」
- 講師:森地 茂 先生(政策研究大学院大学教授・運輸政策研究所所長)
- 司会:上田孝行 先生(東京大学教授)

【概要】

この講演では現在進められている国土形成計画の作成過程での要点を紹介して、これからの我が国の新しい国づくりについて議論することを意図している。構成としては、1.国土形成計画の要点、2.日本の経済発展と国土・社会資本政策、3.地域格差、4.何故アジアか？、5.広域地方計画の要点、6.新たな地域発展モデル、である。時間の関係でこれらの話題の全てを紹介できないができるだけ議論していきたい。

今度の国土形成計画の要点は、①人口減少が衰退を意味しない国土、②東アジアにおける各地域の個性と競争力の発現、③新たな「公」を機軸とする地域力の結集、④多様な自立広域圏からなる状況対応力ある国土、の4点にまとめられる。そして、これらを実現するためには、圏域概念の改変が必要であり、国内では地域の

個性、アジアの中では国際競争力、そして、都道府県は広域地方圏での位置付け、そして、都市では人口減少下でのサービスの向上を新たな圏域概念の中で目指す必要がある。

日本の経済発展と国土・社会資本政策を戦後から振り返ると、時の政権や経済社会状況とともに移り変わり、一つの発展モデルを作り上げてきた。

格差の是正は都道府県間格差とともにブロック内格差も大きくその解消も課題になる。経済の一層の国際化を迎えて、その中で新たな格差解消政策がこれからは必要とされる。

「何故アジアか？」という話題については、スライドで示した経済データからも明らかのように国際経済が水平分業の展開として進んでおり、アジア内地域間の交易・交流はさらに競争を生み、交通ネットワークにもそれは大きな影響を与える。

広域地方計画への期待は今度の形成計画の最も特徴的な点である。各ブロックが特色ある制度展開や新たに生まれつつある「公」のシステムを生かしてアジアの時代の中で個性を発揮することが期待されている。

新たな地域発展モデルは、これまでに述べたように広域圏ごとの地域発展モデルの追求であり、そして、大都市、中枢都市が広域地方圏を

先導するようなモデルも含む。拠点都市の発展を地域活性化に繋げる方策や域内各地の個性と

戦略を反映したモデルでもある。

以上の広範な話題について紹介した。会員の



▲講演される森地先生



▲講演会会場風景

■ 2008年4月見学会

当会恒例の行事となった見学会を今回は新東名(第二東名)富士-静岡間プロジェクトにて実施した。

- 日 時：平成20年4月7日(月)
- 場 所：静岡県内（富士(工)、清水(工)、静岡(工) 管内)
- 案内者：中日本高速道路株式会社
 - 1) 横浜支社長 吉川良一 氏
 - 2) 横浜支社建設事業部部长 太田睦男 氏
 - 3) 横浜支社富士工事事務所所長 鳥本康弘 氏
 - 4) 同 同 工務課長 大岩春仁 氏
 - 5) 同 清水工事事務所副所長 兼 宣光 氏
 - 6) 同 静岡工事事務所所長 吉村義朗 氏
- 行 程

時 間	所要	移動	場 所	案内者
10:50			新富士駅出発 (※中型バス)	NEXCO 中日本 横浜支社:
		0:35		NEXCO 中日本 富士工事 事務所: 鳥本所長
11:25 ~ 11:30	0:05		第二東名 富士 IC(通過)	吉川支社長 太田建設部長
12:00 ~ 12:10	0:10		富士川橋	
		0:10		
12:20 ~ 13:00	0:40		昼食(速弁) ※富士川 TN JV 事務所	
		0:30		
13:30 ~ 13:40	0:10		芝川高架台 浅台	NEXCO 中日本 清水工事 事務所: 兼副所長
		0:10		
13:50 ~ 13:55	0:05		第二東名 清水 IC(通過)	
		0:05		
14:00 ~ 14:00	0:00		清水 PA(通過)	
		0:15		
14:15 ~ 14:25	0:10		吉原 JCT	
		0:15		
14:40 ~ 14:40	0:00		清水第四 TN・長尾橋(通過)	NEXCO 中日本 静岡工事 事務所: 吉村所長
		0:20		
15:00 ~ 15:10	0:10		猿田・巴川橋	
		0:30		
15:40			静岡駅	

- 以下に見学会の報告・感想文を法人賛助会員の(株)オリエンタルコンサルタンツ 松浦 啓氏、松戸 努氏に執筆いただいた。

【富士工事事務所管内】富士工事事務所 鳥本康弘所長

■ 新富士駅を出発 富士ICへ

10:50 新富士駅に集合し、一同バスへ乗り込み第二東名 富士ICへ移動。天候は、曇り。

車中、富士工事事務所 鳥本康弘所長より配布資料の新東名事業概要について説明頂いた。

<以下の説明頂いた新東名の概要>

新東名高速道路は、東京と名古屋を結ぶ約330kmの高規格幹線道路であり、①現東名の混雑解消・利用者サービス向上、②災害時における代替機能、③三大都市圏の連携強化などの役割を担っている。

静岡県内(御殿場JCT～引佐JCT間 約164km)は、平成24年の供用を目指し急ピッチで工事が進められており用地買収はほぼ概成されている。NEXCOでは、発災が原因で静岡県内の国道1号や現東名が不通となった場合、工事中の新東名を緊急輸送路として使用する協定を静岡県と締結しており、主に下り線を主体に先行施工することによって、既に全体の91%にあたる150kmが通行可能な状況となっている。

ここでバスは、西富士道路を経由し富士ICへ到着。一同バスを降り、鳥本康弘所長より工事概要を説明頂いた後、西富士道路を横過する富士跨線橋の上から施工現場を見学。晴れた日には富士山の全景を望むことができる見晴らしの良い場所だが、当日は雲に覆われたあいにくの天候により、かすかに裾野が見え隠れする程度であった。

■ 富士川橋へ

バスは、富士宮第一～第二TNを通過し、富士川橋へ到着。バスを降り、上り線橋上より見学。

平成16年に土木学会田中賞を受賞している富士川橋は、鋼桁とコンクリートアーチを組み合わせた日本初のハイブリットアーチであり、アーチスパン265mは、コンクリートアーチ橋では日本最大である。その大きさは、シンデレラ城より高く、ジェット機3機よりも長く、東京ドームやヒンデンブルグ号がスッポリ入るといふ。

巨大アーチが描くそのプロポーションは、存在感を示しつつも、(橋上からではあるが)周辺の風景にうまくとけ込んでいる印象を受ける。

■ 昼食タイム

富士川橋で集合写真を撮影後、一同バスへ乗り込み、昼食会場となる富士川TN JV事務所へ。

昼食は高速道路限定のお弁当『速弁』。地元のお老舗料亭 なすび総本店の「駿河葵物語」(定価2,680円!)に舌鼓を打ちながらしばしの休憩。

■ 富士川TN→芝川高架橋 棧台へ

昼食後、富士川TNへと移動。TBM(トンネルボーリングマシン)の施工ビデオを鑑賞しつつ、新東名最大級の延長(約4.5km)を誇る富士川TNを通過。工事用TNを抜けて芝川高架橋に到着。雨が降り始める中、棧台から見学することに。

芝川高架橋は、日本初のストラット付PC箱桁橋であり、一般的なPC箱桁橋に比べ、上部工の軽量化、下部構造のスリム化を実現した経済性に優れた橋梁形式となっている。さらに、鋼管とPCストランド帯鉄筋を組み合わせた鋼管・コンクリート複合構造橋脚、自然環境や景観に配慮した竹割式の円形土留工など、様々な新工法・新技術が取り入れられていた。



写真-1 芝川高架橋(棧台より)



写真-2 富士川橋にて集合写真

【清水工事事務所管内】清水工事事務所 兼 宣光副所長

■ 清水ICへ

芝川高架橋にて富士工事より清水工事へと引き継がれ、案内役も清水工事事務所 兼 宣光副所長へバトンタッチ。清水工事管内の概要を紹介頂きながら一路清水ICへ。

バスは穴原高架橋の施工現場を通過し、清水ICへ到着するが、あいにくの天候により車窓より施工現場を視察。国道52号と連絡する当ICは、現在、下部工工事が完了し、上り線本線橋の上部工や料金所の工事が進められていた。



写真-3 清水IC（下り線本線橋より）

■ 清水PAへ

バスは清水PAへと移動する中、いよいよ雨も本降りに。仮置きされた流用土が流れ出すこともなく、未舗装箇所でも、きちんと排水処理されていることに小さく感心しつつ、バスは清水PAへ到着。

当該PAは、750万 m^3 もの盛土材によって構築された最大高さ90mの超高盛土構造であり、施工にあたっては、大型施工機械の導入によるコスト削減策やIT土工システム※による品質管理・土量管理が取り入れられていた。

ちなみに、NEXCOでは、民営化に伴いSA・PAの多目的利用を推進しているところであり、当該PAも景勝地としての有効活用が期待される場所であるが、残念なことに地形的制約によって本PAから富士山を拝むことは出来ないそうである。

■ 吉原JCTへ

バスは、清水PAから清水第一～第三TNを抜け吉原JCTへ。

途中、大量の間伐材が現場に日干しされていたが、工事で発生した枝葉や根株を醗酵させ、堆肥として法面の緑化基材に活用するためとの説明を頂き、環境対策の取り組みに大きく感心しつつ、バスは吉原JCTへ到着。

※ IT土工システム：大規模土工における品質管理・土量管理などの一連の工程をGPS衛生などのITの活用により、個々の情報を統合的に集約し、迅速化を図るシステム

吉原JCTは、新東名と現東名との連絡路(清水連絡路)を繋ぎ、将来的には中部横断自動車道の起点となるJCTであり、名古屋側の本線橋やランプ橋の上部工工事が行われていた。

道路構造の大部分は橋梁形式であり、JCT関連だけで60本もの橋脚(しかも中部横断自動車道との接続ランプを除く)が立ち並ぶスケール感に圧倒される感じさえ覚えた。



写真-4 吉原JCT

【静岡工事事務所管内】静岡工事事務所 吉村義朗所長

■ 猿田・巴川橋へ

バスは清水第四TN・長尾橋を通過したところで、清水工事より静岡工事へと引継ぎ。案内役も静岡工事事務所 吉村義朗所長へバトンタッチ。

静岡工事管内の概要をお話頂きながら最後の見学地となる猿田・巴川橋へ到着。

静岡I.C～吉原JCT間に位置する猿田・巴川橋は、土工区間約60mを挟んで全長1.2kmにわたる最大支間長119mの長大橋であり、下り線の工事が完了し、上り線側上部工の架橋工事が行われていた。

本橋梁は、上部工がPC複合トラス構造、橋脚が鋼管・コンクリート複合構造となっており、経済性はもとより、静岡市内からの眺望にも配慮し、背後の山並みとの調和を図った透過性の高い橋梁形式が取り入れられていた。

最先端の建設技術の導入によって橋脚もスリム化され、先日、一般市民から「橋脚が細すぎるが大丈夫か?」と心配する声が挙がり、地元テレビ局の取材を受けたというエピソードも聞かせて頂いた。



写真-5 巴川橋（管理事務所より）

猿田・巴川橋の見学後、バスは静岡ICを経由しJR静岡駅へ。

あいにくの天候であったが、全行程をほぼ予定通り終え、15:40JR静岡駅にて解散となった。

■ 2008年3月定例研究会

- 日時：3月5日(水) 16:30～18:30
- 場所：計画・交通研究会 会議室
- 発表者：武藤慎一 先生(山梨大学)・
杉木直 氏(ドーコン)
- 発表内容：都市モデルを用いた都市・交通
政策評価研究の現状
- 司会：東京大学教授 上田孝行先生

【研究会の趣旨等】

本研究会は「都市モデルを用いた都市・交通政策評価に関する研究会」と称し、都市構造と交通の相互関係に着目した都市モデル研究について、今一度研究成果を整理し、そして実務における適用を念頭においた情報発信を行うことを目的に企画したものである。

【第一回研究会概要】

第一回研究会では、まず研究会に先立ち計画交通研究会前会長の中村英夫先生よりご挨拶を頂いた後、武蔵工業大学 宮本和明先生より「世界における都市モデルの活用状況」と題し都市モデルの活用状況についてのご紹介を頂き、東京大学 上田孝行先生より「都市モデルによる政策評価の意義」と題し政策評価に対する都市モデル活用の意義をご説明頂いた。その後、山梨大学武藤が研究会の趣旨を改めて説明するため、「都市モデルの分析対象と都市・交通政策評価に

おける役割」と題して、土地利用－交通モデルと呼ばれて研究が進められてきた発展経緯から、都市モデルの適用対象を説明した後、都市モデル活用の現状について説明を行った。その上で、先の研究会の趣旨にある、本研究会の目的について改めて説明を行った。

続いて、ドーコンの杉木直氏に「マイクロシミュレーションモデルの活用と課題」と題してご発表頂いた。ここでは、都市分析のためのマイクロシミュレーションモデルの発展経緯が説明され、そして当該モデルの特徴が他のモデルとの比較分析の中で明らかとされた。その上で、マイクロシミュレーションモデル活用の現状をご説明頂き、今後の活用のための課題について整理が示された。

そして、山梨大学武藤が「均衡モデルの活用と課題」ということで、経済均衡モデルの、特に便益評価における有用性について説明を行った。ここでは、都市モデルにおける均衡の概念とその有用性について解説がなされ、そして均衡モデルの一つである応用都市経済(CUE)モデルについて紹介された。最後に、均衡モデルを適用する際の注意点と課題について説明がなされた。

以上の後、今後の研究会のスケジュールが説明され、二ヶ月に一回程度、研究会を行うこととされた。

(文責：武藤慎一)



▲発表者 武藤 慎一 先生



▲発表者 杉木 直 氏

■ 2008年4月 理事会・総会・懇親会

【理事会】

- 日時：平成20年4月22日(火)
16時30分～17時30分
- 場所：プラザエフ（主婦会館）3F コスモス
- 定足数数：出席17、委任状9 計26(理事総数31)定足数を満足
- 議事 詳細は同封の総会資料参照
 - (1) 第30回通常総会付議事項の審議
 - 1) 平成19年度 事業報告、収支決算について
(原案通り可決)
 - 2) 平成20年度 事業計画、収支予算について
(原案通り可決)
 - 3) 規約の変更 (原案通り可決)
 - 4) 役員の変更 (事務局案通り可決)
 - (2) 会員異動の承認 (原案とおりの承認)

【第二回 理事会】

本来は、第30回総会にて副会長人数の変更、役員(理事・監事)改選の議案を可決してから第二回理事会を開催して審議すべきであるが、時間の都合から、総会での原案通りの可決を前提に審議。

- 日時：平成20年4月22日(火)
17時30分～17時40分
- 場所：プラザエフ（主婦会館）3F コスモス
- 定足数数：出席18、委任状9 計27(理事総数32)定足数を満足
- 議事 詳細は同封の総会資料および役員名簿参照
 - (1) 会長1、副会長3、事務局長1の互選
 - (2) 幹事の承認
 - (3) フェローの承認(会長退任の黒川先生、理事退任の花岡先生)

【第30回通常総会】

- 日時:平成20年4月22日(火)
18時00分～19時00分
- 開催場所:プラザエフ(主婦会館)8F すいせん
- 定足数：出席者数37、委任状60、計97
(正会員総数120) 定足数を満足
- 議事
 - 1) 平成19年度 事業報告、収支決算について
 - 2) 平成20年度 事業計画、収支予算について
 - 3) 規約の変更
 - 4) 役員の変更
 - 5) 規約変更
 - 6) 役員の変更、
 - 7) 幹事の任命以上いずれも原案通り可決。
 - 8) その他事項として
見学会の平成19年度実績と20年度の予定を岡本幹事(筑波大 准教授)がプロジェクターを使って説明。

【懇親会】

- 日時:平成20年4月22日(火)
19時00分～20時00分
- 開催場所:プラザエフ(主婦会館)7F カトレア
新会長・森地先生の挨拶、前会長・黒川先生の乾杯の音頭で始まり、会員相互の交流と懇親がはかられた。また、その合間に新副会長の家田先生、同 屋井先生、新事務局長の水野氏、新理事の兵藤先生、6月末退任予定の橋本昭夫等の挨拶があった。最後に、副会長の石田先生の中締め後流れ解散となった。



▲総会で挨拶される黒川会長



▲総会会場風景



▲懇親会にて挨拶される新会長・森地先生

■ 2008年2月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅶ講・第15回)

●日時：平成20年2月27日(水) 17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

東京工業大学名誉教授 中村良夫 先生

特別講義：風景からの町づくり

●参加者：29名（うち計交研関係14名）

〔講義概要〕

NHKラジオ第2放送の番組「こころをよむ」で1月から3月まで13回（1回40分）にわたり放送された「風景からの町づくり」の概要を解説した。

第一回は、日本の都市は消耗品のように扱われているがこれで良いのか、このことが都市の美醜の問題に大きく関係しているのではないか、という問いかけから始めている。

都市の本来の目的は、文化を集積し発酵させること、文化に結晶させことだと考える。戦後の日本はこのことを忘れてしまい、キャッシュフロー化してしまった。この日本の都市の現状に対して“都市の存在理由を考え直すこと”を講座全体のテーマとしている。

第二回は、明治以降の外国人が見た日本の風景の賛辞と批判を紹介した。近年の日本については、批判が多い。

第三回では、日本の都市の病んだ風景を客観的に示そうと試み、都市の顔がなくなった、都市の余韻がなくなったなどの状況を要約して、“廃墟的な仮景”とした。永続性がなく、“零落した山水都市”の風景である。

第四回は、なぜ歪んだかを示した。日本は明治以降、西欧都市をモデルとしてきたが、西欧では個人と都市のアイデンティティが一致している。この点が日本と根本的に異なる。

日本の組織の「家」意識の問題、生産者論理の偏重、消費生活の向上政策の未成熟といった問題が指摘される。

第五回・六回は、なぜ西欧都市がうまくいっているのかを示した。一言でいうと、都市をつくる歴史が違う。西欧には、千年以上前に中世都市ができている。中世都市は、市民の自治組織を基本とした独立国家であった。その伝統のもと、

西欧の人々には団体精神が生まれ、全体を美しくする精神が培われた。

一方、日本では、市民都市が育たず、国家があり、優れた個人もいるが、中間の市民・コミュニティという概念が育っていない。

第七回・八回・九回では、明治・大正時代の近代化をしながら伝統を残す考え方を紹介した。琵琶湖疏水、無有好醜の伝統など。

第十回は、町づくりには、アートではなく、作法美が必要であることを示した。現代の都市をアートとしてみる見方があるが、現実の景観には生活があり、衛生環境やモラルの意識がある。生活感覚と切り離せない美意識、しかも、コミュニティが認めた集合的な美意識、それが“作法美”である。

第十一回以降は結論で、町づくりは決死の道楽である、道楽の余裕がないとできない、普通の産業とは異なり、経済原理では良いものはできないことなどを示した。

日本の都市は、明治以降の文明の根本にあるものが問われており、その結果が景観に現われている。表面的に修正してもどうにもならない。これは、「憂国の風景論」である。

【テキスト「風景からの町づくり」の目次】

はじめに

第一回 なぜ風景を問うのか

第二回 異邦人たちの視線

第三回 日本の風景は病んでいるか

第四回 風景はなぜ歪んだのか

第五回 近代西欧の苦闘

第六回 西欧アメニティの源流

第七回 明治日本人の構想力

第八回 風土のもつ底力

第九回 大正デモクラシーの風圧圏

第十回 お作法としての町づくり

第十一回 天・地・人の町づくり

第十二回 生活文化を創り出す

第十三回 円熟の季節

おわりに

(NHK出版、2008.1.1、A5、pp.191)

(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

■ 2008年4月 計交研・当て塾共催セミナー
(第Ⅳ講・第1回)

●日時：平成20年4月23日(水)17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生

観光原論研究への導入

●参加者：13名（うち計交研関係4名）

〔講義概要〕

本年度は観光原論の取りまとめを目指し、これまでの目次を見直し修正していく。その際、研究が空中分解しないために以下のような“大枠”を常に念頭に置く。これらは、観光原論の導入となるものである。

1. 学習・研究の立場

(1) 学問とは知識の体系

専門用語とオーダー（専用の数値）を持つと新しい学問が成立したと言われる（一説）。

(2) 実学は「人間にとっての意味」が大切

観光は「実学」の最たるものであり、“何のためか”を明確にすることが重要である。

(3) 二人の言葉

以下の二人の言葉にあるように、学問は分かりやすく表現することが大切である。

①橋本五郎氏（読賣新聞論説委員）

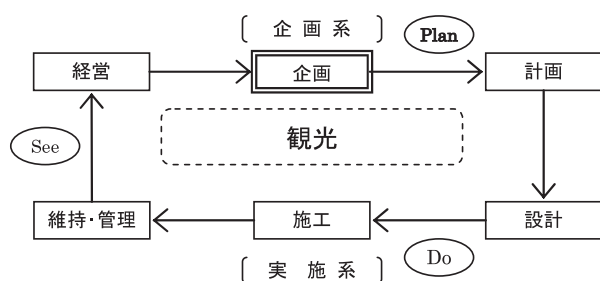
学問の真価は、説得力をもって分かりやすく説明できるかどうかによる。

②井上ひさし氏

むづかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく。

(4) 専門の分野

自分がどの分野を専門とするかを明確にすることが重要である。専門を駆使するための基礎的な学習は、分野により異なる。観光は後発の学問であるため、企画が重要である。企画以外は他の学問の手法論を参考にできる。



2. 実学としての構造—原論の位置づけ

実学である観光の研究は、常に原論を意識することが大切で、観光が人生にとって重要であること理解して研究を進める必要がある。


原論 <企画>	戦略 <計画>	戦術 <手法>	周辺諸学 <情報>
観光研究			

□原論の意義・役割

- ①本質をつかむ、哲学的にすすめる／②概念を明瞭にする。／③プロは原論を持っている。／④本気になれる、パワーが出る。／⑤道筋が通せる。自信がつく。合意形成への接近。／⑥間違いを犯さない。／⑦長続きする。／⑧満足が得られる。／⑨自分が成長できる。／⑩原論はセルモーターだ。

3. 原論の組み立て

観光は、自然の観光資源や交通手段などの科学技術を活用する。さらに、大衆化したことでマナーや道徳といった社会の法規も重要な関わりを持つ。このように、自然、技術、人間社会の三つがどのように観光のベースを形成しているかを整理し、“人間にとっての意味”を評価することにより、「観光とは」という結論が得られる。

いろいろな言葉	概念	理論の整理	意味論
	調査	分析	評価
	仮説	証明	吟味
概念	①自然の法則 ②科学技術の原理 ③人間社会の法規 (通念・道徳)	その意味—人間にとって 	
観光とは	各知見の整理	人はなぜ旅をするのか	

4. 原論研究・・・常にゴールを見詰めて

観光の原論研究では、観光とは何か、どんな原理・法則・規則が潜んでいるのか、事例は何かについて、次のものを材料に整理する必要がある。

- ・人間、歴史、個人の体験、文献
- ・現象(情報はありふれている。その整理は)

(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

■ 2008年6月定例研究会

- 日 時：6月16日(月) 16:30～18:30
- 場 所：計画・交通研究会 会議室
- 発表者：宮本 和明先生(武蔵工業大学)・
山崎 清氏(価値総合研究所)
- 発表内容(予定)
宮本 和明先生:「世界における実用都市モデル
の現状と課題」
山崎 清 氏:「応用都市経済モデルによる
実務への適用方法」
- 司会：東京大学 教授 上田 孝行 先生

■ 2008年5月—7月 計交研・当て塾共催
セミナー第Ⅷ講

- 日 時：平成20年5月14日(水)、5月28日(水)、
6月以降も第2・第4水曜日の予定。
時間はいずれも17:00-19:00
- 場 所：計画・交通研究会会議室

□ Publication / Documents

刊行物・文献資料 □

■ 寄贈図書

- 景観デザイン規範事例集 (河川・海岸・港湾編)
- 景観デザイン規範事例集 (道路・橋梁・街路・公園編)
- 発行：国土交通省 国土技術政策総合研究所 平成20年3月

■ 2007 (平成19) 年度学位取得論文

以下に個人会員が指導教員となった博士論文、修士論文、(卒業論文) を紹介します。ご希望により閲覧・貸出および個別研究会、定例研究会の開催も致します。

●大学・大学院名・学科・専攻名・研究室名 (指導教官名) <大学名50音順>

○論文著者名/論文表題/キーワード/学位取得年月日/学位区分/レベル (I = 基礎的、II = 改良後実務
応用可能、III = 実務応用可能) /URL

●茨城大学大学院理工学研究科環境機能科学専攻景観・空間設計研究室

○石内鉄平/偕楽園公園管理業務の高度化を想定した公園管理システムの構築とその利用/公園管理、情報化、
利用動態、景観資源、バリアフリーマップ/平成20年3月/博士/III

●茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻景観・空間設計研究室

○伊藤勝紀/ランドスケープと街区の構成からみた農村集落の景観形成～東海村須和間地区を対象として～/
農村景観、街区構成、建築形態/平成20年3月/修士/I

○鈴木崇之/人工地形を形成する土木構造物によるランドスケープの構成/坂道、沿道敷地構成、外構、
建築物/平成20年3月/修士/I

○浜田隆志/現代日本における人工水辺空間をもつ建築作品の写真構成/建築写真、人工水辺、構図/平成
20年3月/修士/I

○宮田明憲/茨城県内主要国道沿線を対象とした観光資源及び眺望景観に基づく地域区分に関する研究/
道路沿線、観光・景観資源、GIS/平成20年3月/修士/II

○MAOKHAMPHIOU SISOUK/ベトナム国ハノイ及びフエを対象とした気候変動に伴う都市生活環境圏
への影響に関する研究/GIS、水害予測、公園緑地、適応策/平成20年3月/修士/II

●宇都宮大学工学研究科博士後期課程生産情報工学専攻情報システム工学講座

○大門創／人口減少下における地方中核都市のTOD戦略に関する研究／土地利用、TOD、LRT／平成20年3月1日／博士／II／<http://plans.ishii.utsunomiya-u.ac.jp/study.html>

●宇都宮大学工学部建設学専攻地域計画学研究室

○丑越勝也／GISを用いた総合的交通事故マネジメントに関する研究／交通安全、GIS／平成20年3月25日／修士／II／<http://plans.ishii.utsunomiya-u.ac.jp/study.html>

○丸山健太／バックキャストからみた交通環境にやさしい都市構造に関する研究／環境負荷、都市構造、バックキャスト／平成20年3月25日／修士／I／<http://plans.ishii.utsunomiya-u.ac.jp/study.html>

○羅霄／3DVRを用いた情報公開が市民意識に及ぼす影響に関する研究／合意形成、3次元VR／平成20年3月25日／修士／II／<http://plans.ishii.utsunomiya-u.ac.jp/study.html>

●九州大学大学院工学府都市環境システム工学専攻交通システム工学研究室

○岡村洋一郎／高齢者の混入を考慮した階段のある歩行空間における群集流動に関する研究／パーソナルスペース、高齢者、階段歩行、群集流動／平成20年3月25日／修士／I

○村田洋樹／人口減少と高齢化を考慮したコンパクトな都市の形成に関する研究／地方都市、コンパクトシティ、公共交通、人口減少、高齢化／平成20年3月25日／修士／I

●埼玉大学大学院理工学研究科環境システム工学系専攻環境社会基盤国際コース設計計画研究室

○相澤裕美／産官学の連携による鉄道駅周辺の交通まちづくりの実現手法に関する研究／まちづくり、駅歩行者天国、オープンカフェ、大宮／平成20年3月25日／修士／II

○小嶋文／参加意思の多様性を考慮した地区交通計画に関する研究～抜け道MMおよびサイレント公共選択論の試み／サイレント、参加、抜け道MM／平成20年3月25日／修士／II

○鈴木健一／住民の要望を取り入れた路線バス運行計画策定に関する研究／バス、PDCA、日高／平成20年3月25日／修士／II

○中澤利治／交通シミュレーション及び路外・路上駐車場所選択モデルを用いた駐車管理評価システムの構築／交通シミュレーション、駐車／平成20年3月25日／修士／II

○JONGKITTIPONG WACHIRA／少子高齢化時代の郊外住宅団地におけるDRT(Demand Responsible Transport)の導入可能性に関する研究～日高市高麗川団地を事例として／DRT、少子高齢化、住宅団地日高／平成20年3月25日／修士／II

○梁訓輔／生活道路におけるIntelligent Rat-Runnerの実態および意識に関する研究／抜け道、生活道路、カーナビ／平成20年3月25日／修士／II

●首都大学東京大学院工学研究科土木工学専攻計画・交通研究室

○洪性俊／高速道路における交通性能評価手法の開発／高速道路、交通量速度相関、道路幾何構造、大型車混入率、降雨量／平成20年3月25日／博士／I

●首都大学東京大学院都市環境科学研究科都市基盤環境工学専攻計画・交通研究室

○木澤友輔／個人属性・地形要因を反映した徒歩・自転車による日常的活動機会へのアクセシビリティに関する研究／ニュータウン、地形起伏、高齢化、アクセシビリティ／平成20年3月25日／修士／I

○谷田貝曜／圏央道整備を対象とした交通流動・経路選択行動変化の実証分析／道路ネットワーク整備、交通流動、経路選択行動、交通流シミュレーション／平成20年3月25日／修士／I

●政策研究大学院大学政策研究科開発政策プログラム

○飯島雄一／高速道路利用者のETC購入行動に関する研究／ETC、高速道路、アンケート調査／平成20年3月25日／修士／II

○岩本吉正／無電柱化推進のための考察—景観・防災の視点から—／無電柱化、需要家負担、景観、防災／平成20年3月25日／修士／II

○ト部聖子／都市域における再整備等の経験からの港湾域物流拠点の再開発手法に関する研究／再開発、物流、港湾域、臨港地区／平成20年3月25日／修士／II

○岡田哲也／文化的景観政策の成立に関する考察／文化的景観、文化財保護法、法整備、成立過程／平成20年3月25日／修士／II

○加藤隆／山岳トンネルの維持管理段階におけるリスクの定量化についての研究／山岳トンネル、維持管理、劣化予測、リスク／平成20年3月25日／修士／II

- 北田健介／公共工事入札における不当な低入札抑止のための考察／低価格入札、総合評価落札方式、公共工事／平成20年3月25日／修士／II
- 下坂雅信／中南米の大都市における交通に関する研究／中南米、大都市、都市交通、交通政策、BRT、地下鉄／平成20年3月25日／修士／II
- 長南政宏／市町村間地域所得格差の推移に関する研究／地域所得格差、地方税、マイル尺度、東京への影響／平成20年3月25日／修士／III
- 野澤誠／高速バスの時系列動向／高速バス、バス事業規制緩和政策／平成20年3月25日／修士／II
- 原田洋平／観光地の再整備に関する研究－観光地の類型化と再整備手法の検討－／観光地、再整備、類型、類型化／平成20年3月25日／修士／II
- 藤井斉／コメの貿易自由化と農家への直接所得補償導入の影響予測／WTO農業交渉、コメ、貿易自由化、直接所得補償、CGEモデル／平成20年3月25日／修士／III
- 藤谷恵一／DEAを用いたクリーン開発メカニズム（CDM）プロジェクト効率性評価に関する考察／クリーン開発メカニズム、データ包括分析法、効率性、環境／平成20年3月25日／修士／III
- 岩本吉正／無電柱化推進のための考察-景観・防災の視点から／無電柱化、需要家負担、景観、防災／平成20年4月／修士／II
- 岡田哲也／文化的景観政策の成立に関する考察／Cultural landscape, Landscape law, Leadership of local government, Occupation／平成20年4月／修士／II
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻都市交通研究室
- 中野敦／都市圏交通計画・調査の課題と改善方策に関する研究／交通調査／平成20年3月25日／博士
- 馬場健司／地方自治体におけるエネルギー政策プロセスに関する研究／エネルギー政策、合意形成／平成20年3月25日／博士
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム工学専攻都市交通研究室
- 市橋堯行／つくばエクスプレス開業前後の公共交通網変化が沿線居住者の交通意識および交通行動に与えた影響／つくばエクスプレス、パネル調査、交通行動、交通意識／平成20年3月25日／修士／II
- 栗原剛／わが国の旅行環境に対する外国人来訪者の評価に関する研究／インバウンド政策、旅行環境、外国人来訪者／平成20年3月25日／修士I
- 関根喜雄／乗用車の長期間移動再現シミュレータの開発とその活用／シミュレーション、プローブ、ITS／平成20年3月25日／修士／III
- 瀬谷創／ヘドニック・アプローチを用いた便益評価への空間統計モデルの適用に関する基礎的研究／便益評価、空間統計モデル、ヘドニック・アプローチ／平成20年3月25日／修士／I
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム工学専攻都市交通研究室
- 宇野寛子／三環状道路完成後の首都圏高速道路の料金体系に関する研究／料金制度、環状道路、広域ネットワーク配分／平成20年3月25日／卒論／II
- 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市交通研究室
- 青野貞康／応答型Web交通調査手法の開発と適用に関する研究／応答型調査、インターネット、WebGIS／平成20年3月24日／博士／III／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- 高瀬知彦／乗継ターミナルにおける活動を考慮した地方都市におけるバス路線再編の評価に関する研究～長野市のバス路線を対象として～／バス路線再編、乗継ターミナル、活動機会／平成20年3月24日／修士／II／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- 高橋理／郊外駅前地区への転居とタウン情報の提示が行動圏と自動車利用の変更意図に及ぼす影響に関する研究～柏の葉キャンパス駅周辺地区を例として～／転居、タウン情報、自動車利用／平成20年3月24日／修士／II／<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/>
- 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻桑原研究室
- 丸澤紀誠／認知誤差及び出発時間変更幅を導入した需要の時間的分散による混雑緩和施策に関する研究／時間分散、交通需要マネジメント／平成20年9月28日／修士／II
- Geetha Nandani Weerasooriya／BUS TRAVEL TIME VARIABILITY ANALYSYS AND PREDICTION MODEL FOR REAL-TIME APPLICATIONS／Bus Travel Time Variability／平成20年9月28日／修士／III

- Dias Charitha Gayan Jagathpriya/SELF LEARNING TOOL FOR TRAVEL TIME ESTIMATION IN SIGNALIZED URBAN NETWORKS BASED ON PROBE DATA/Travel Time Estimation, Probe Data/平成20年9月28日/修士/Ⅲ
- 坪田隆宏/限界時間の均衡化による動的システム最適配分に関する研究/動的システム最適配分、動的限界時間/平成20年3月24日/修士/I
- 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻地域/情報研究室
- 遠藤修平/地図Webサービスを利用した道路交通サービス水準視覚化システムの開発/プローブ、道路交通サービス、視覚化、Webサービス/平成20年3月24日/修士/Ⅱ
- 小鍛治恵/火災保険特殊地図と電話番号簿を用いた戦前・東京の住宅地図作成に関する研究/住宅地図、戦前、火災保険特殊地図、電話番号簿/平成20年3月24日/修士/I
- 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用環境システム学専攻物流システム研究室
- 李志明/企業拠点の国際間移動の実態とカストロフィー理論を用いたモデル化に関する研究/ロジスティクス、立地戦略、海外進出、撤退/平成20年3月25日/博士/http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/thesis/thesis_d.html
- 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海運ロジスティクス専攻物流システム研究室
- 石井文吾/シミュレーション分析による大規模小売店舗の荷さばき用駐車スペース数の算出方法に関する研究/荷捌き活動、荷さばき用駐車スペース数、大規模小売店舗立地法/平成20年3月25日/修士/http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/thesis/thesis_m.html
- 三部貴義/物資流動調査のデータにもとづく品目別の物流チャネルの設定と輸送先の業種別・施設別による物流施設の立地分布に関する研究/物流チャネル、物資流動調査、物流施設計画/平成20年3月25日/修士/http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/thesis/thesis_m.html
- 濱田剛/輸送時に発生する二酸化炭素排出量の算定方法の比較と二酸化炭素排出量削減対策の導入効果に関する研究/環境問題、CO₂排出量算定方法、二酸化炭素排出量/平成20年3月25日/修士/http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/thesis/thesis_m.html
- 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻藤井研究室
- 香川太郎/商店主の景観改善行動に対する態度変容に向けた心理的方略の研究/景観、態度変容、商店街/平成20年3月26日/修士/Ⅱ/<http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/>
- 黒岩武志/道徳性発達理論に基づく土木技術者倫理に関する実証的研究/技術者倫理、解釈可能性/平成20年3月26日/修士/I/<http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/>
- 島田絹子/メディアを活用したモビリティ・マネジメント (MM) の有効性と施策評価に関する研究/モビリティ・マネジメント、マスメディア/平成20年3月26日/修士/Ⅱ/<http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/>
- 東京工業大学工学部土木工学科藤井研究室
- 伊地知恭右/内村鑑三「代表的日本人」の通読による大衆性低減効果についての実証的研究/大衆性抑制、読書/平成20年3月26日/学士/I/<http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/>
- 三木谷智/心理的方略による放置駐輪削減施策の実証的研究/放置駐輪、コミュニケーション/平成20年3月26日/学士/Ⅲ/<http://www.plan.cv.titech.ac.jp/fujiilab/>
- 名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻中村英樹研究室
- 小出貴文/「信号遅れに基づく幹線街路の旅行速度照査手法に関する研究」/信号遅れ、旅行速度、性能照査/平成20年3月25日/卒論/Ⅱ
- 吉岡慶祐/「二車線道路における平面交差点制御方式の評価に関する研究」/平面交差点、ラウンドアバウト、環境負荷/平成20年3月25日/卒論/Ⅱ
- 稲野晃/「複数ボトルネックを含む高速道路区間における渋滞現象の確率的解析」/高速道路、ボトルネック、渋滞/平成20年3月25日/修士/Ⅱ
- 斉藤裕子/「幹線街路における沿道アクセス挙動が旅行速度に与える影響に関する研究」/旅行速度、幹線街路、沿道アクセス/平成20年3月25日/修士/Ⅱ
- 呉有源/「二車線道路における車頭時間特性に関する研究」/二車線道路、車頭時間/平成20年3月25日/修士/I
- 内海泰輔/「時間交通需要変動特性を考慮した交通性能照査型道路計画設計手法に関する研究」/時間交通需要変動、性能照査、道路計画設計/平成19年12月28日/博士/Ⅲ

- Mohamed Shawky Ahmed/"A Study on Capacity Fluctuation and Breakdown Probability at Urban Expressway Merging Sections"/Breakdown、交通容量変動、都市高速道路、合流部/平成19年12月28日/博士/II
- Jerome Lejano Catbagan/"DEVELOPMENT OF A TWO-LANE HIGHWAY QUALITY OF SERVICE EVALUATION METHODOLOGY BASED ON FOLLOWER FLOW"/往復2車線道路、追従状態、サービスの質の評価/平成20年3月25日/博士/III
- 馬淵太樹/「日本におけるラウンドアバウトの画と設計に関する研究」/ラウンドアバウト、計画設計、性能評価/平成20年4月/博士/III
- 日本大学大学院理工学研究科社会交通工学専攻運輸交通計画（轟）研究室
- 阿部光治/バス事業におけるマーケティング戦略4Pの実態に関する研究/バス、マーケティング/平成20年3月25日/修士/I/www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/
- 荒谷太郎/都市間公共交通サービスによる移動効率の地域格差分析/都市間交通、地域格差、DEA/平成20年3月25日/修士/II/www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/
- 鈴木孝幸/駅タクシープールの混雑課金制度に関する研究—JR千葉駅東口を対象として—/タクシープール、混雑課金/平成20年3月25日/修士/II/www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN
- 谷澤悠輔/地方鉄道存続検討協議会における協議円滑化に関する研究—階層分析法を利用して—/地方鉄道、協議会、階層分析法/平成20年3月25日/修士/I/www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/
- 松田博和/都市鉄道における混雑情報提供による乗車変更行動の分析/鉄道混雑、混雑情報、行動分析/平成20年3月25日/修士/II/www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/
- 日本大学大学院理工学研究科土木工学専攻岸井研究室（都市計画研究室）
- 中野仁嘉/業務核都市を目的としたP&R実態分析/端末交通手段、駐車場、駐車料金、利用者特性、パーソントリップ調査/平成20年3月25日/修士/I
- 西塚陽/超高層建築物立地の実態と居住者の生活行動に関する調査研究—東京23区をケーススタディとして—/住み替え、駐車場、交通行動、通勤時間、建物立地/平成20年3月25日/修士/I
- 西村悠典/関東大震災における避難行動と避難場所の分布/言説分析、人口変化、面積、小学校、バラック/平成20年3月25日/修士/I
- 野尻彰/鉄道跡地の実態と再活用に関する研究/線路跡地、駅跡地、代替交通手段、バス専用路線、公共交通/平成20年3月25日/修士/I
- 日本大学大学院理工学研究科博士後期課程社会交通工学専攻
- ウティクルゴジャシ/開発途上都市におけるCO₂排出量制限の下での最大トリップ数に関する研究/CO₂排出量削減、二段階最適化モデル、中国/平成20年3月25日/博士/II
- 室井寿明/災害時における情報伝達手段としての車車間通信の利用に関する研究/車車間通信、防災、情報伝達、マルチエージェント/平成20年3月25日/博士/II
- 岡村誠/タイのコミュニティにおける交通安全活動でのヒヤリ地図づくり活用の提案/交通安全、ヒヤリ地図づくり、コミュニティ活動/平成20年3月25日/修士/III
- 日本大学理工学部社会交通工学科
- 平野正偉/タイで二輪車ドライビングシミュレータに用いるためのVR交通空間の作成とその再現性の評価に関する分析/交通安全、オートバイ、ドライビングシミュレータ/平成20年3月25日/卒論/II
- 萬井健太/混雑路線の交差点を対象とした救急車両優先制御方式に関する研究/救急車両優先信号制御、シミュレーション/平成20年3月25日/卒論/I
- 山梨大学大学院医学工学総合研究部自然機能開発専攻佐々木研究室
- 丸石浩一/公共交通まちづくりWSを通じた参加者の態度・行動分析/交通まちづくり、ワークショップ、態度・意識分析、テキストマイニング/平成20年3月19日/修士/II
- 鈴木清太/高齢者の交通特性と公共交通の価値評価に関する研究/高齢者、公共交通、費用便益分析/平成20年3月19日/学士/II
- 原民輝/目的地間の連関を考慮した観光周遊特性の分析/観光周遊、目的地選択/平成20年3月19日/学士/II

●山梨大学大学院医学工学総合教育部持続社会形成専攻北村研究室

○久須見裕文／甲府盆地における人口と市街地の変動／甲府盆地における人口と市街地の変動／平成20年3月31日／修士／I

○千須和真司／山梨県における地形景観と名所構造の分析—文京区本郷地区を対象とした事例分析—／山梨県・地形景観・名所・神社・寺院／平成20年3月31日／修士／I

□ Backyard

事務局通信 □

■会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。

定例研究会や個別研究会の開催時以外は部屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご利用下さい。個別研究会等で会議室を御利用になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド（Kodak）、液晶プロジェクター（APTi）が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し出し用ノート型パソコン（IBM Think Pad）、FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いただけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状況にあります。どうぞ、お気軽に御利用ください。

■個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につきまして、当会のフェロー会員・個人会員（地域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教授がおられます。既送の会員名簿を御参照下さい）が個別に御相談・懇談に応じます。ご希望により日時を調整しますので、事務局まで遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的な研究課題・プロジェクト内容と、希望されるフェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

■原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

- ・ **Publication/Documents**：刊行物・文献資料。
- ・ **Announcement**：研究会・催事の御案内
会員による講演会等の御案内も随時掲載します。
日時・会場・事務局等を明記願います。
- ・ **Report**：報告
海外研修報告、国際会議参加報告等

●原稿執筆上のご注意

- ①原稿のテキストファイルを電子メール（推奨。本文挿入または添付ファイル）あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さい。願います。
- ②編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍（上限4単位＝1ページ分：表題・図表を含む）になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。
- ③写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。
- ④締め切りは偶数月の15日（必着）です。

■ホームページの刷新

ホームページを刷新しました。まだ不十分なところもありますが、逐次改善していきます。ご意見をいただければ幸いです。

アドレスは

<http://www.keikaku-kotsu.org/>

計画・交通研究会

会長	森地 茂
副会長	石田 東生
副会長	家田 仁
副会長	屋井 鉄夫
事務局長	水野 高信
会報編集委員長	藤井 聡
会報編集責任者	橋本 昭夫

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

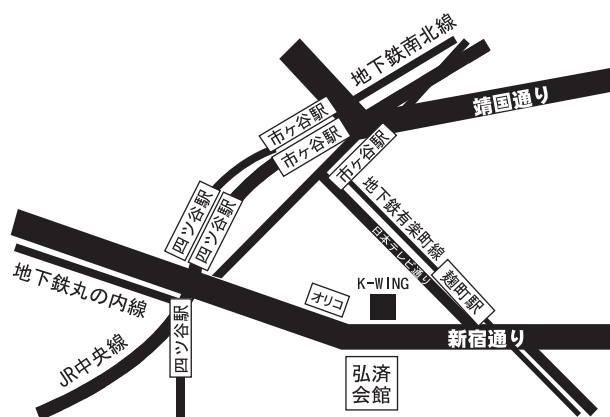
TEL=03-3265-1774

FAX=03-3221-5489

Homepage =

(新) <http://www.keikaku-kotsu.org/>

(旧) <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅麹町口から徒歩6分/地下鉄丸の内線四谷駅徒歩6分/南北線四谷駅徒歩7分/有楽町線麹町駅4番出口より4分

弘済会館前の大きなビル（オリコ）の右隣、1階にドラッグストア（クスリ）の入った小さなビル。